



室伏 布民代

MUROFUSHI FUMIYO

合同会社SAZAE PLUS
代表・三代目デザイナー

ABOUT

私について

1952年から続く衣装製作の技術と経験を、祖母・母から三代にわたり継承。舞台衣装を中心に、映像、イベント、現代美術、海外公演など多様な表現の現場に携わっています。デザインを形にするだけでなく、演者の動き、着脱のしやすさ、舞台照明や映像での見え方、耐久性、安全性、運搬まで考慮し、企画の世界観を「現場で機能する衣装・造形物」へ落とし込むことを得意としています。

STRENGTH

SAZAE PLUSの強み

- 衣装から頭飾り・小道具・大道具・空間装飾まで一つの窓口で対応
- 演者の身体を美しく見せる設計、動きを妨げない構造、早着替え・着脱・照明映えへの知見
- 協力会社と連携し、一点物から複数点・短納期・特殊構造まで柔軟な製作体制

合同会社SAZAE PLUS

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-18-15

TASUKI PRIME SANGENJAYA 3F-3

E-mail : sazaecostume@gmail.com

JOB CAREER

三代にわたる衣装製作の歩み

1952年～ 初代

日劇ミュージックホールから始まった衣装製作

日劇ミュージックホールでまかないに携わったことをきっかけに、出演者から衣装製作を依頼されるように。1954年頃からは力道山氏のプロレス衣装に携わり、1960年代にはメリー真珠氏をはじめ、劇場のトップレスショーやキャバレーで使用される舞台衣装を製作。

1965年～ 二代目

テレビと劇場の時代を支えて

エンターテインメント産業の発展期に二代目が継承。日本テレビ系列「11PM」出演ダンサーの衣装、渡辺プロダクション関連の芸能衣装、全国のキャバレー・トップレスショー・ストリップ劇場の舞台衣装を長年にわたり製作。この経験が「演者の身体と舞台環境まで考えた衣装製作」の基盤に。

1997年～ 三代目・室伏布民代

世界を巡り、技術を継ぐ

大学卒業後、スポーツアパレルメーカー勤務を経て渡米し、世界各地で民族衣装・伝統素材・装飾技法の見聞を広げる。1998年 田中千代服飾専門学校（現・渋谷ファッション&アート専門学校）入学。1999年 第14回ベリテジュエリーデザインコンテスト「個だわりジュエリー」入選。2000年 同校を首席で卒業し、三代目としてサザエコスチュームを継承。以降も初代から続く劇場衣装の製作に携わり、早着替え・着脱構造・肌への負担・照明映え・耐久性など、ショーの現場で培った知見を一点ごとの設計に生かす。

主な実績

- 2018 Value Frontier株式会社の企画において、日本の帯と土に還る素材を組み合わせたバッグ・小物を製作
- 2020 武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会のドレス製作／本多劇場のコロナ対策パーテーション収納袋500枚を製作
- 2021 下北沢・ザ・スズナリ 舞台作品「グッドディスタンス」の衣装製作
- 2024 国立西洋美術館の展覧会にて、現代美術家・遠藤麻衣氏とパフォーマー・宇佐美なつ氏の衣装を製作
- 2025 ラスベガス・ダラスの劇場公演向けに、ラート競技を取り入れたパフォーマンス衣装を製作
- 2026 ラスベガスにて現地研修・交流。シルク・ドゥ・ソレイユ等の舞台裏を見学し、Lady Gaga氏の衣装製作に携わるJustin Velarde氏の製作現場を訪問

2026年4月

合同会社SAZAE PLUS 設立

三代にわたり受け継いできた衣装製作事業を発展させ、合同会社SAZAE PLUSを設立。衣装製作を中心に多方面の制作現場に携わりながら、環境に配慮した物作りを提案しています。